2024年度　町田市立鶴川第三小学校　学校経営計画・学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

令和6年3月31日

学校教育目標　　○正しいことをやりぬく子　○友だちを大切にする子　○すすんで考える子　○体をきたえる子	学校経営の重点　令和5・6年度　東京都教育委員会　人権尊重教育推進校　人権尊重教育に重点を置く
○目指す学校像・・・・・・・・①一人一人の児童が自分のよさを発揮し自己肯定感を高められる学校　②一人一人の児童が安心して自分らしく過ごせる学校 ③地域に信頼され地域・家庭とともに児童を育てる学校　④教員がチームとして取り組む学校 ○目指す児童・生徒像・・・・①課題解決するために粘り強く取組む子　②自分も相手も大切にしお互いに認め合い助け合える子　③心も身体も健康で一生懸命に取組む子 ○目指す教師像・・・・・・・　①児童の実態を把握し特別支援教育の視点をもち、授業力向上のために努力を惜しまない教師 ②学校経営の視点に立ち見通しを持って取組む行動力のある教師	重点目標の成果と課題 成果　◎研究を通して、学校組織が活性化した。また、教員の授業力が向上し人権意識も高まった。◎児童が集中して話を聞けるようになった。また、児童の人権感覚が高まり学びが深まった。児童同士が自分も相手も大切に認めあう姿がみられるようになった。 課題　●教員の指導力の向上。・「認め合う」時間の確保と充実を図り、児童の自己肯定感をさらに高めていくこと。●学校の取り組みや児童の主体的に学ぶ姿勢、家庭学習への取り組みや体力向上の成果を保護者により正確に伝え児童への理解を深めていくための手だてを講じていくこと。

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	地域の環境及び人材を生かした体験的活動を企画し、実施する。	カリキュラム・マネジメントに基づき、地域教材や地域人材を活用した体験的な活動を行う。 ※1　2	4　年間指導計画に設定した地域学校協働活動の90%以上を実施 3　年間指導計画に設定した地域学校協働活動の90%以上を実施 2　年間指導計画に設定した地域学校協働活動の70%以上を実施 1　年間指導計画に設定した地域学校協働活動の実施が70%未満	3.7	A	A　学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価　80%以上 B　学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価　55%未満	81	A	・地域環境・地域人材を活用した、地域連携教育活動に対する理解が図られている。 ・HPの更新や学校だより、tetotuの活用から学校の情報が適切に公開されていることを実感している。 ・小1ギャップや、中1ギャップへの取組が見えにくく、保護者に理解を得られていない。アンケート対象を高学年限定にすると取組に対する理解が深まると考える	・幼稚園・保育園と低学年の交流や6年生と中学生との交流が年に1回程度では、保護者への理解が図れない。 毎月1回くらいでかかわりを持てるような教育課程に組み込めるような取り組みを図りたい。 例 近くの幼稚園への読み聞かせ、小中連携の清掃活動（第三金曜日は学校の周りを一緒に清掃する）	◎アンケートの保護者回収率100%は高く評価できる。 ◎良く取り組んでいる ◎地域とのかかわりもオータムや課外授業などよくできている。 ●回数増加ではなく、行政関係部署と連携して情報発信することも重要。 ●保護者に見えやすくするには、児童が考えている活動とその活動を身近に感じられる交流や連携があるとよい。	A
			コミュニティスクールを通じて、本校の教育活動を周知し、意見交換を行う。※4	4　必要情報の90%以上を周知・意見交換 3　必要情報の80%以上を周知・意見交換 2　必要情報の70%以上を周知・意見交換 1　必要情報の70%未満を周知・意見交換	3.3	B	A　学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価　80%以上 B　学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価　55%未満	82	A				
			幼保小・小中連携を行い小1ギャップ、中1ギャップ対応をする。統合に向けた連携を（鶴四小、鶴二小）図る。 ※17	4　年間指導計画に設定した幼保小・小中連携活動の90%以上を実施 3　年間指導計画に設定した幼保小・小中連携活動の80%以上を実施 2　年間指導計画に設定した幼保小・小中連携活動の70%以上を実施 1　年間指導計画に設定した幼保小・小中連携活動の実施が70%未満	3.3	B	A　学校評価アンケート「オ」①「幼保小・小中連携」肯定的評価　80%以上 B　学校評価アンケート「オ」①「幼保小・小中連携」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「オ」①「幼保小・小中連携」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「オ」①「幼保小・小中連携」肯定的評価　55%未満	36	D				
		積極的な情報発信と公開を通して、教育活動の理解を求める。	学校だより・学年だより、ホームページの更新で保護者の安心できる情報を発信する（スクールサポートスタッフを活用する）※3	4　週4回以上の更新 3　週3回以上の更新 2　週2回以上の更新 1　週1回以上の更新	3.3	B	A　学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価　80%以上 B　学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価　55%未満	81	A				
			保護者の気持ちに寄り添い、良好的な人間関係のもとに、教育活動を積極的に公開する。 ※4	4　90%以上のクラスで意識して公開に努めた 3　80%以上のクラスで意識して公開に努めた 2　70%以上のクラスで意識して公開に努めた 1　公開に努めたクラスが70%未満だった。	3.8	A	A　学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価　80%以上 B　学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価　55%未満	93	A				
確かな学力の育成	子どもが主体的に学ぶ授業改革を進め、主体的・対話的で深い学びを実現することで、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等とともに学び続ける力の育成を図る。	授業をデザインする8つの取組を踏まえ、児童が「分かる　できる　楽しい授業」を展開する。	個に応じた指導を徹底し、つまずきを取り除き、知識・技能を定着させる。※5　6	4　90%以上の授業で意識して指導した 3　80%以上の授業で意識して指導した 2　70%以上の授業で実施して指導した 1　70%未満の授業で実施して指導した	3.5	A	A　学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価　80%以上 B　学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価　55%未満	87	A	・Qubenaの活用が計画的に進められ、児童のタブレット端末の日常的な活用が定着してきている。 ・個に応じた指導の工夫や、算数少人数での取組の成果が上がっていることを保護者も理解している。 ・児童の家庭学習や読書の取り組みがなかなか図られない。家庭学習の習慣化をさらに意識していきたい。	・児童が自ら課題を解決したり、学んだことを相手に伝えたりする場の設定と学習の振り返りを継続し、児童自らが変容を感じ取る手だてをとる。ポートフォリオ的な日常の取り組みを図る。 ・家庭学習は家庭と連携し児童に学び方を定着させて、家庭学習等自らすすんで取り組む児童の育成を図る。	●Qubenaの学習は、タブレット端末の不具合などでやりづらさがあるのでは？と考える。また、本当に理解しているのか不安になる。 ●学校の方策の意図を積極的に発信していくことが重要。 ●手を挙げて発言しているのに声が小さくて聞こえないのは残念。	A
			既習事項を活用し、自分の考えを多様な方法で表現させ課題解決型・探究的な学習・協働学習を導入する。※8．9	4　90%以上の授業で実施 3　80%以上の授業で実施 2　70%以上の授業で実施 1　70%未満の授業で実施	3.4	B	A　児童アンケートで80%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言 B　児童アンケートで70%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言 C　児童アンケートで55%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言 D　児童アンケートで55%未満が自分の考えを表現し、学び合いで発言	81	A				
		学習への興味・関心を高め、児童の変容を適切に評価し、児童の「学び続ける力」を育てる。	主体的に学びに向かう児童を目指し、（自己自他ともに認めあえる）に進んで取り組む学習態度を育てる。親子読書、調べ学習等で学校図書館を活用する。※7.9	4　全ての教育活動において意識して取組んだ 3　90%以上の教育活動で意識して取組んだ 2　80%以上の教育活動で意識して取組んだ 1　80%未満の教育活動で意識して取組んだ	3.6	A	A　学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価　80%以上 B　学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価　55%未満	69	C				
			プロジェクター、クロームの活用を推進し、めあてに応じてICTを活用できる力を育てる。※9	4　全ての教育活動において意識して取組んだ 3　90%以上の教育活動で意識して取組んだ 2　80%以上の教育活動で意識して取組んだ 1　80%未満の教育活動で意識して取組んだ	3.2	B	A　児童アンケートで80%以上が肯定的な回答 B　児童アンケートで70%以上が肯定的な回答 C　児童アンケートで55%以上が肯定的な回答 D　児童アンケートで肯定的な回答が55%未満	86	A				
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にする意識・意欲・態度を育てる。	生命を大切にする心や他人を思いやる心、規範意識等を育む。	心のアンケートを活用し、児童一人一人と向き合い、挨拶の励行、話を聞く態度等を通し人権を相互に尊重する姿勢を育て、いじめを絶対に見逃さない生活指導 ※10	4　いじめ防止の授業を月に1回以上指導実施 3　いじめ防止の授業を学期に2回以上指導実施 2　いじめ防止の授業を学期に1回以上指導実施 1　いじめ防止の授業を年に1回以上実施	3.7	A	A　学校評価アンケート「ウ」①・児童アンケートで、肯定的評価　80%以上 B　学校評価アンケート「ウ」①・児童アンケートで、肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「ウ」①・児童アンケートで、肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「ウ」①・児童アンケートで、肯定的評価　55%未満	72	B	・人権尊重教育推進校として児童の人権感覚を高める取組を実践してきた結果、自己肯定感や友達とのかかわりの中でよりよい関係を築こうとしていることへの保護者の理解が得られている。 ・いじめ対応、交通事故防止、ネットマナーについて教員は指導していると思っていても保護者の認識は低いことが分かる。	・人権尊重教育推進校としての実践を継続し、人権感覚をともに高めていく。 ・あいさつ、特別の教科道徳、特別活動（委員会・クラブ活動、縦割り班活動　行事）で、自分も相手も大切にしていくかかわりを学ぶ活動を継続していく。 ・ネットマナーについては、家庭の指導力にかかわってくる。セーフティ教室等による保護者の啓発、学校と家庭の連携を深めていく。	◎人権尊重教育推進校研究発表会でテーマを皆で話し合って定義付け、事例を探し分析して具現化し、子供たちに分かりやすく教えるという教育のPDCAが大変高度に回っている事例に感心した。国際問題、経済、環境等に応用が利くと思う。 ●学校で養うよりも家庭・家族が養うことが重要。 ●ネットマナーは家庭の指導力が必要だが、その家庭を指導するのは学校。	A
			道徳科の授業では道徳的価値に基づく自己の振り返りの時間を設置し、道徳的実践力を育てる。 ※10.11．12．13．	4　すべての道徳授業で指導実施 3　90%以上の道徳授業で指導実施 2　80%以上の道徳授業で指導実施 1　80%未満の道徳授業で指導実施	3.6	A	A　学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識や挨拶」肯定的評価　80%以上 B　学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識や挨拶」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識や挨拶」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識や挨拶」肯定的評価　55%未満	84	A				
		児童の自己有用感を高め、人との関わり方を通して自分も友達も大切にできる態度を養う。	子どもの主体的な活動を重視する。委員会・クラブ活動・異学年交流活動，話合い活動を行い自己肯定感を高める。特別支援の視点で児童を見守る。※10	4　90%以上の指導場面で実施 3　90%以上の指導場面で実施 2　70%以上の指導場面で実施 1　70%未満の指導場面で実施	3.7	A	A　QU、もしくは、児童アンケートでの満足評価　80%以上 B　QU、もしくは、児童アンケートでの満足評価　70%以上 C　QU、もしくは、児童アンケートでの満足評価　55%以上 D　QU、もしくは、児童アンケートでの満足評価　55%未満	91	A				
			交通事故防止や不審者対応の安全意識、ネットマナーなどの育成　※14	4　安全教育の授業で月に1回以上指導実施 3　安全教育の授業で学期に2回以上指導実施 2　安全教育の授業で学期に1回以上指導実施 1　安全教育の授業で年に1回以上実施	3.7	A	A　学校評価アンケート「ウ」④⑤「安全意識・ネットマナー」肯定的評価　80%以上 B　学校評価アンケート「ウ」④⑤「安全意識・ネットマナー」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「ウ」④⑤「安全意識・ネットマナー」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「ウ」④⑤「安全意識・ネットマナー」肯定的評価　55%未満	78	B				
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する.	運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、基礎体力の向上を図る。	体力テストの結果分析を生かした体育科の授業やコオーディネーショントレーニングや体つくりを生かして体育朝会、体力向上旬間を実施し、運動の日常化を行う。※15	4　90%以上の授業で実施 3　80%以上の授業で実施 2　70%以上の授業で実施 1　70%未満の授業で実施	3.5	A	A　80%以上の児童が課題項目で体力が向上 B　70%以上の児童が課題項目で体力が向上 C　55%以上の児童が課題項目で体力が向上 D　55%未満の児童が課題項目で体力が向上	79	B	・学校全体の児童の運動量の向上にはまだまだ課題があるが、食育については意識をもって学習していることは理解されつつある。 ・自分の体は自分で守れるように安全教育をすすめている。校内環境の改善については保護者の理解が図られた。 ・評価Cの項目は、レガシーの5つの視点のうちスポーツに特化してアンケートを集計してしまった結果。障がい者理解等人権教育として取り組んでいるので実際はAかBである。	・児童一人一人の体力向上を図るために体力テストの結果と改善策を明確にして、個に応じた取り組みをする。 ・月に1回ある避難訓練、安全指導を充実させ、児童が自分の体は自分で守るための具体的な行動を身に付けさせていく。	◎学校は年間を通して、朝や昼休みなどを利用し身体を使う体力向上をちゃんと目指そうという取り組みができている。 ●日常の遊び（複数）とスポーツ等の中で身に付けてほしい。 ●朝ごはんを食べるなどの生活習慣はBよりもAになるよう家庭の努力も必要。	B
			「早寝・早起き・朝ごはん・朝トイレ」等の声かけを通して、生活リズム定着週間を活用し、家庭と連携した健康教育と食育を推進する。※16	4　全ての指導場面で実施 3　90%以上の指導場面で実施 2　80%以上の指導場面で実施 1　80%未満の指導場面で実施	3.3	B	A　学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価　80%未満 B　学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価　55%未満	78	B				
		安全な環境を整備し、自己・他者の命や心身を守る力を育成するための全校体制を確立する。	オリンピックレガシー教育計画に基づき、共生の精神をはぐくむための体験的活動を取り入れた学びを全校で実施する※1	4　90%以上の指導場面で実施 3　80%以上の指導場面で実施 2　70%以上の指導場面で実施 1　70%未満の指導場面で実施	3.7	A	A　学校評価アンケート「エ」①「進んで運動」肯定的評価　80%以上 B　学校評価アンケート「エ」①「進んで運動」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「エ」①「進んで運動」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「エ」①「進んで運動」肯定的評価　55%未満	69	C				
			毎週金曜日に危機管理情報を共有し、専門機関とも連携を図り、チーム支援力を高め指導充実を図る。 ※18	4　90%以上の指導場面で実施 3　80%以上の指導場面で実施 2　70%以上の指導場面で実施 1　70%未満の指導場面で実施	3.5	A	A　学校評価アンケート「オ」②「危機管理体制・校内美化」肯定的評価　80%未満 B　学校評価アンケート「オ」②「危機管理体制・校内美化食」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「オ」②「危機管理体制・校内美化」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「オ」②「危機管理体制・校内美化」肯定的評価　55%未満	83	A				
その他													

取組指標の評価基準（結果数値からABCD評価へ）

取組指標平均　3．5以上	⇒	評語A
取組指標平均　3以上3．5未満	⇒	評語B
取組指標平均　2以上3未満	⇒	評語C
取組指標平均　2未満	⇒	評語D

※　学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記してください。

成果指標評価基準

成果指標平均　80%以上	⇒評価A
成果指標平均　70%以上	⇒評価B
成果指標平均　55%以上	⇒評価C
成果指標平均　55%未満	⇒評価D

学校関係者評価の評価基準例

A⇒　取組・成果ともに十分評価できる
B⇒　取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい
C⇒　目標達成には至らないため、次年度の改善が必要
D⇒　重要な課題であるため、次年度、重点的に改善

※　学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。